

事業計画書

事業名	河原塚史編纂事業
団体名	河原塚史編纂委員会

<p>取り組もうとする松戸市のテーマ(課題)</p>	<p>河原塚は八柱村のなかでも、東部地区のなかでも、人口、面積とももつとも小さく、明治の初めのころは20数世帯、昭和の初めでも30世帯、200人弱が、細々と農業で生計を立てていた。そこに、戦後の高度成長期に地方から出てきた人たちが住み始め、いまでは2500世帯、6000人が暮らすベッドタウンとなっている。</p> <p>地域の歴史を、いまわかる限り調べてまとめ、住民に提供することにより、地域への愛着をもち、ひいては新旧住民の融和をはかっていきたい。また、冊子にして後世に残し、末長く伝えていく。</p>																																				
<p>事業の目的</p>	<p>「地域づくり」は、住民の地域への愛着があつてこそ可能だ。そのためには多くの住民が、自分たちの地域の歴史を知り、地域の良さを知ることが大事だ。地域への愛着を持ってもらい、地域づくりの基礎的な力をつくっていく。</p>																																				
<p>事業内容</p>	<p>1 事業計画</p> <p>河原塚の歴史を調べ、テーマごとにまとめて4つの町会の回覧版に毎月1回のせて成果を全住民に提供している。平成26年1月から回覧を開始し、27年9月現在21回目となっている。一度も休むことなく、順調にすすんでいる。</p> <p>28年度は、残る9回分のテーマをまとめて回覧するとともに、最後に冊子にまとめて希望者に無償配布し、また後世に残す。28年度は事業の総仕上げの年である。</p> <p>2 スケジュール</p> <table border="1" data-bbox="485 1417 1385 1778"> <thead> <tr> <th></th> <th>配布回覧のテーマ</th> <th>11月</th> <th>12月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td>開通前後の新京成</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4月</td> <td>春木川の水害と改修</td> <td></td> <td>周辺の開発 松飛台</td> </tr> <tr> <td>5月</td> <td>50年前の子供の遊び</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6月</td> <td>住民を守ってきた消防団</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7月</td> <td>小字の数と名前の由来</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>8月</td> <td>工場や事業所の歴史</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9月</td> <td>4つの町会の生い立ち</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>旧家に伝わる料理、屋号</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>冊子は28年11月末に完成させ、12月中に配布したい。つまり、最後の回覧板が回ると同時に考えている。回覧板用の原稿を早めに完成させ、7月末ごろ出版社に提出すれば12月配布が可能だ。希望者には28年7月ごろ回す町会の回覧版で冊子の無償配布を伝え、希望の有無を記入してもらう。</p>		配布回覧のテーマ	11月	12月			開通前後の新京成		4月	春木川の水害と改修		周辺の開発 松飛台	5月	50年前の子供の遊び			6月	住民を守ってきた消防団			7月	小字の数と名前の由来			8月	工場や事業所の歴史			9月	4つの町会の生い立ち			10月	旧家に伝わる料理、屋号		
	配布回覧のテーマ	11月	12月																																		
		開通前後の新京成																																			
4月	春木川の水害と改修		周辺の開発 松飛台																																		
5月	50年前の子供の遊び																																				
6月	住民を守ってきた消防団																																				
7月	小字の数と名前の由来																																				
8月	工場や事業所の歴史																																				
9月	4つの町会の生い立ち																																				
10月	旧家に伝わる料理、屋号																																				
<p>既存の事業からステップアップする部分</p>	<p>これまで活動の成果を回覧板にて住民に知らせてきました。回覧に対する反応も大きく、毎回コピーして残す人も多く報告されました。事業の仕上げ</p>																																				

<p>※ステップアップ助成のみ</p>	<p>として、冊子として完成させることを目標とした。無償配布を前提とするためにステップアップの資金助成を申請いたします。</p>
<p>事業の目標</p>	<p>回覧板は4町会で合計151部、1700世帯に回し、成果を提供している。このほか河原塚小・中学校や松戸河原塚郵便局、老人ホーム、八柱霊園管理事務所にも配布している。28年12月まで36回にまとめる。</p> <p>最後に仕上げる冊子の部数は、町会員への配布が千冊余り、行政機関や教育機関等への贈呈が300～400冊、後世に残す部数約500冊で、約2千冊とみている。河原塚のほか、東部地区の各町会や市内の連合町会、図書館にも配り、できるだけ多くの市民に、河原塚での地域づくりの模様を伝えていきたい。</p> <p>有償ではなく無償配布するのは、地域での反響が予想以上に大きいからだ。「面白い。つぎがくるのを楽しみにしている」「毎回コピーして大事に残している」という声は、いまもあちこちから寄せられている。また、河原塚郵便局では順番待ちで呼ばれた客が「いま読んでいるから後にしてほしい」といってファイルの綴じ込を讀んでいる。歴史調査で伺った先では、40年以上も前の写真を押し入れの奥から探し出し、協力してくれている。</p> <p>これらは事業をすすめている編纂委員を励まし「もっといいものをつくろう」という意欲を支えている。編纂委員会と住民の気持ちが一つになって成功させてきたことを、無償提供することによってともに喜びあいたい。</p> <p>冊子化の資金については、松戸市からの助成金と各町会からの協賛金、それに有力な方法として個人などからの協賛を募りたい。</p>
<p>今後の展望</p>	<p>事業開始後、地域に少なからず変化が出ている。</p> <p>河原塚小学校では毎週木曜日の朝、護者による「読み聞かせ」を行っており、ここで回覧板が活用されている。河原塚唯一のお寺・本勝寺では、今年の6月、「講演 河原塚・いまと昔の物語」という講演会を開催し、編纂委員会の幹事が講師を務めた。約50人が参加し、客殿がいっぱいになった。</p> <p>熊野神社では7月25日、学問の神様・菅原道真公を祭神とする、天神社を復興する遷座祭が盛大におこなわれた。ことの発端は、編纂事業の歴史調査で、地域の熊野神社に道真公の祭神が存在することを、千葉県文書館の古文書で発見したことによるもの。編纂委員=氏子たちが、受験生で賑わう神社にしようと、新しく社を建立して祀った。新聞やテレビで大きく報道された。</p> <p>また、市立博物館からは資料提供につて協力を得ることができた。28年度も同様のことが期待できる。</p> <p>編纂事業は、冊子にまとめ配布した段階で終了し、編纂委員会は解散する。出版社から出版の依頼がきているが、実現すれば、河原塚の取り組みを多くの地域の人々にも伝え、広げていくことになり、河原塚の宣伝、松戸市の宣伝にもなるので検討したい。</p>

事業の予算概要

【収入】

(単位：円)

科目		金額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥48,800	対象事業費の一部及び対象外経費を団体の会計より拠出
	協賛金	¥500,000	河原塚4町会から協賛を予定
	協賛金	¥1,000,000	個人や事業所から協賛を予定
	自己資金の合計額 (A)	¥1,548,800	
市	市民活動助成金 (B)	¥300,000	
合計額 (C) = (A+B)		¥1,848,800	

【支出】

科目		予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	冊子発行経費	¥1,750,000	冊子を2千冊発行
	印刷費	¥3,000	回覧板の印刷とコピー代 回覧板9回
	消耗品費	¥61,000	用紙代、インク代、封筒代、印画紙代ほか
	通信費	¥1,800	切手代
対象経費の合計 (D)		¥1,815,800	
その他経費	食糧費	¥25,000	委員の昼食代一部補助
	交通費、資料代	¥8,000	委員の交通費ほか
	その他経費の合計 (E)	¥33,000	
合計額 (F) = (D+E)		¥1,848,800	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が、対象となる経費 (D) 欄の90%以内であること。
- 2 自己資金 (A) 欄が、「対象経費 (D) 欄の10%以上」であること。
- 3 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。
- 4 対象経費については、必ず証拠書類を添付すること。